



ここは以前、建主の父上が医院を開いていた。その父上の亡き後、建主はここを大好きな音楽を存分に楽しめる部屋にリフォームしたいと考えて、越賀克郎さんに相談した。

越賀さんはまず建物の状態を調べた。なにしろ築50年はたつ建物だから、基礎のコンクリートが無筋なうえ、その深さが30cmぐらいしかない。さらに西側は崖地である。この家は大きな地震には耐えられないと、越賀さんは建替えを勧めた。

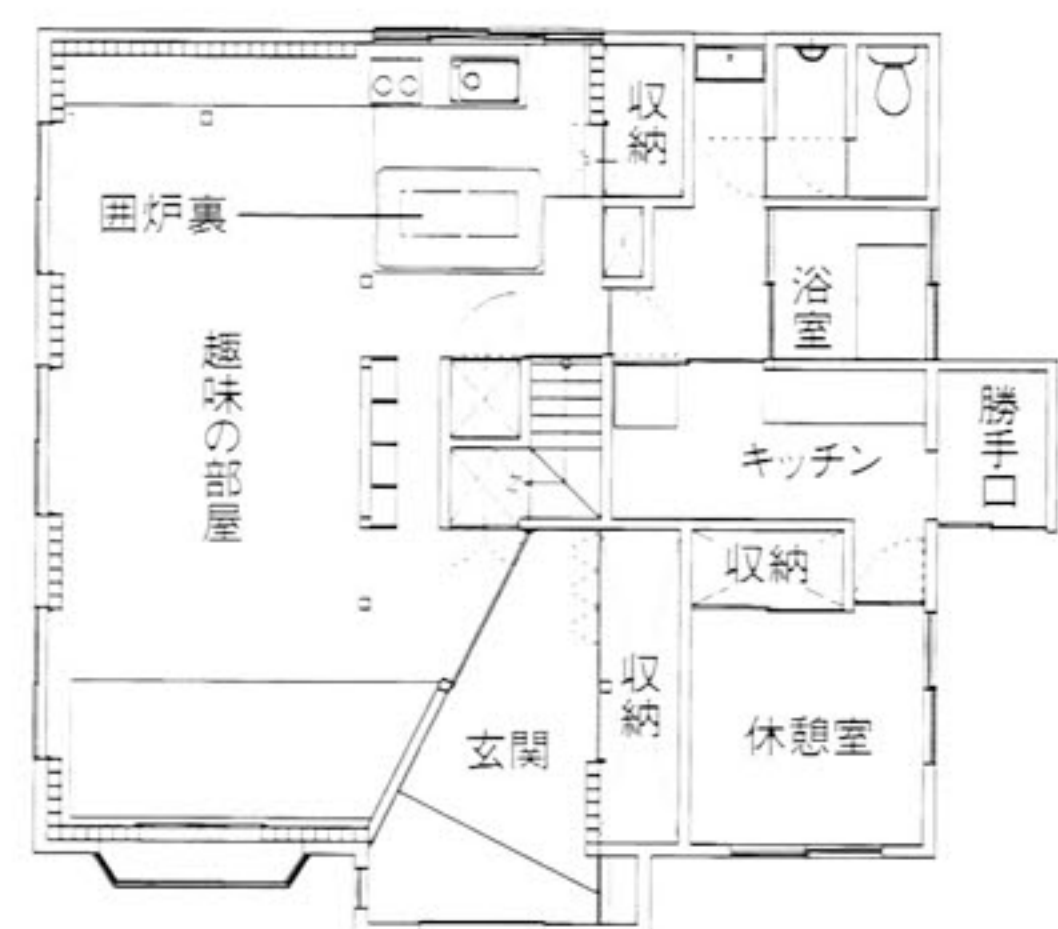
しかしこの建物は建主が生まれ育ったところで、思い出の建物がなくなるのは忍びない。それなら改装して耐震補強をしようということになった。

応接室、診察室、和室が並んでいたのをひとつながりの大きな部屋とし、茶の間だったところには囲炉裏テーブルをつくることにした。耐震補強のために越賀さんは今回、半割合せ柱を使った。これは半割にした木材を背中合せにしてプレス加工したものである。これを既存の軸組の内側に、何本かずつまとめて配置して、面で支えるようにした（前頁参照）。

建主は生れ変わったこの部屋がすっかり気に入って、親戚や友人を招いては音楽を大音量でかけて酒や食事を楽しんでる。

所在地＝東京都青梅市
 設計＝設計コア 越賀克郎、栢野麻希
 ☎03-3377-8800 FAX03-3377-8801
 協力＝工藤智勇（旭化成）
 施工＝大源建設 中村貞一
 1階床面積＝96.06㎡（うち改装部分63.74㎡）
 規模構造＝地上2階建木造

■内部仕上
 趣味室：床＝フローリング（カラマツ）t12mm
 張一部大理石貼
 壁＝柿渋紙貼、ドロブラ珪藻土塗、構造壁（半割合せ柱オイルフィニッシュ）
 天井＝スギ板すのこ状張オスモカラー塗装、
 吸音材（ライブウル）一部PB張VP塗装



1階平面図 1/250

耐震補強は、まず無筋の基礎に耐圧盤を打ち、屋根の瓦を鉄板にして全体を軽くするところから始めた。建主が2階はそのまま残したいというので2階は全く触らず、その代り2階が傾いても1階がしっかり支える構造にした。

天井材を取払って高さを出し、逆に南側の開口は高さを抑えて、落ち着いた感じになるようにした。この開口部にはツインポリカに美術紙を貼った建具を付けた。床下には空気式の床暖房を入れている。その吹出口にそろえて、オーディオ機器用の配線ピットを設けた。収納の方の壁には、柿渋を塗った和紙を貼っている。

厚さ120mmのクリの田舎裏テーブルを囲むのは、建主夫人、建主、越賀さんの事務所のスタッフの栢野（かやの）さん、越賀さん。撮影＝藤塚光政

思い出の場所が生れ変わって
 設計Ⅱ 越賀克郎